

Another HTML-lint 導入マニュアル
(Ver.JSP)

November 2010 Ver2.0

目 次

1. 本文書の目的と対象	- 3 -
2. タグ検証機能	- 3 -
3. 動作必須環境	- 3 -
4. PERL のバージョン確認	- 3 -
5. 利用モジュールのインストール	- 4 -
6. TOMCAT に CGI を有効にする設定方法	- 5 -
7. ANOTHER HTML-LINT の導入	- 6 -
8. 『ANOTHER HTML-LINT』モジュール動作確認	- 8 -

1. 本文書の目的と対象

本文書は、弊社がお客様に納品する CMS パッケージ製品「HeartCore」におけるタグ検証機能の「Another HTML-lint」モジュールを説明する文書です。

※ 説明内の画像は HeartCore バージョン v7.2.0 となります。

2. タグ検証機能

弊社の CMS パッケージ製品「HeartCore」では、すべてのコンテンツや、テンプレート等は、Web コンテンツ管理システムにより作成・表示されます。

「HeartCore」で準備されているタグ検証機能は、W3C を利用する形式と、HTML-LINT を利用する形式の 2 パターンがあり、本書説明では『Another HTML-lint』を使用し、コンテンツのタグチェックを実現します。

3. 動作必須環境

『Another HTML-lint』の動作には、『Perl5.004』以降の Perl が動作可能な環境を必要とします。

動作環境に Perl がない場合には、Perl のインストール作業も必要となります。

また、『Another HTML-lint』の動作には、Perl のモジュール『Jcode.pm』、『CGI.pm』、『libwww-perl』が必要となります。

※ 詳細は『Another HTML-lint』サイトをご参照下さい

(<http://htmlint.itc.keio.ac.jp/htmlint/download.html>)

【Another HTML-lint 動作必須環境】

•Perl5.004 以上

Jcode.pm

CGI.pm

libwww-perl

4. Perl のバージョン確認

『Another HTML-lint』の導入前に実行環境の Perl バージョンを確認します。

※Jcode.pm は Perl5 専用です、構築環境で Perl5 を使っている事を確認します。

Perl バージョンの確認には『perl -v』コマンドを使用します。

```
# perl -v  
  
This is perl, v5.8.8 built for i386-linux-thread-multi  
  
:
```

5. 利用モジュールのインストール

本説明では、Perl のシェルより CPAN を使用して、『Jcode.pm』『CGI.pm』『libwww-perl』モジュールをインストールします。※CPAN 初期起動時に使用環境の設定質問が出てきます。設定は、対話形式で行ないますので、ご使用の環境に合わせて設定を行って下さい。

Perl のシェルより『CPAN』を起動します。

```
# perl -MCPAN -e shell
```

CPAN 起動後、各モジュールのインストールは、下記のコマンドで実行します。

```
cpan> install [モジュール名]
```

『Jcode.pm モジュール』のインストールコマンド

```
cpan> install Jcode
```

『CGI.pm モジュール』のインストールコマンド

```
cpan> install CGI
```

『libwww-perl モジュール』のインストールコマンド

```
cpan> install Bundle:LWP
```

各モジュールインストール後、CPAN を以下コマンドで終了します。

```
cpan> exit
```

【補足:各モジュールバージョン確認方法】

インストールした各モジュールのバージョンは、下記のコマンドで確認が可能となります。

Jcode.pm モジュールバージョンチェックコマンド

```
perl -MJcode -e'print $Jcode::VERSION'
```

CGI.pm モジュールバージョンチェックコマンド

```
perl -MCGI -e'print $CGI::VERSION'
```

libwww-perl モジュールバージョンチェックコマンド

```
perl -MBundle:LWP -e'print $Bundle:LWP::VERSION'
```

6. Tomcat に CGI を有効にする設定方法

『Another HTML-lint』の動作には、Perl を使用しています。Tomcat 環境にて CGI を実行可能な設定が必要となります、ここでは Tomcat 環境にて CGI を有効にする方法を説明します。

Tomcat6.x 環境で、CGI を有効にするには設定ファイル『web.xml』『context.xml』を編集します。

Tomcat5.x 環境で、CGI を有効にするには設定ファイル『web.xml』を編集し、『servlets-cgi.renametojar』の名前を変更します。

【ファイルの階層例】

```
$CATALINA_HOME/conf/  
  web.xml  
  context.xml
```

Tomcat 設定ファイル『web.xml』の cgi 設定箇所『<servlet-name>cgi</servlet-name>』部分のコメントアウトを削除します。

※『web.xml』ファイルは、Tomcat6.x 、Tomcat5.x にて設定します。

『web.xml』cgi 設定箇所の削除箇所例

```
<!-- ←コメントアウトを削除  
  <servlet>  
    <servlet-name>cgi</servlet-name>  
  <servlet-class>org.apache.catalina.servlets.CGIServlet</servlet-class>  
    ~中略~  
    <param-value>WEB-INF/cgi</param-value>  
  </init-param>  
    <load-on-startup>5</load-on-startup>  
  </servlet>  
--> ←コメントアウトを削除  
  
<!-- ←コメントアウトを削除  
  <servlet-mapping>  
    <servlet-name>cgi</servlet-name>  
    <url-pattern>/cgi-bin/*</url-pattern>  
  </servlet-mapping>  
--> ←コメントアウトを削除
```

次に、Tomcat6.x 設定ファイル『context.xml』の『Content』へ『privileged="true"』を追加設定します。

【編集前】

```
<Context>
~中略~
</Context>
```

【編集後】

```
<Context privileged="true">
~中略~
</Context>
```

※『web.xml』『context.xml』ファイルの設定編集後、Tomcat の再起動が必要となります。

※Tomcat5.x の場合は、『content.xml』設定ファイルを設定する必要はありません。

Tomcat5.x 環境にて CGI を有効にするには、%TOMCAT_HOME%/server/lib/直下にある『servlets-cgi.renamet jar』ファイル名を『servlets-cgi.jar』へ変更します。

※『web.xml』ファイルの設定編集し、『servlets-cgi.renamet jar』ファイルの名前を変更後、Tomcat の再起動が必要となります。

7. Another HTML-lint の導入

『\$CATALINA_HOME/webapps/ROOT/WEB-INF/cgi/html-lint』直下にある

『Another HTML-lint』ソースファイルの CGI スクリプトへパーミッションを 755 に設定付与します。

CGI スクリプト『.cgi』拡張子のソースファイルのパーミッション設定コマンド例

```
# chmod 755 *.cgi
```

CGI スクリプトへパーミッションを設定後、拡張子『.cgi』ファイルの Perl 環境パスの設定状況を確認します。

『Another HTML-lint』CGI スクリプトは、Perl へのパスがデフォルトで『#!/usr/local/bin/perl』になっている為、導入環境の Perl へのパスが異なる場合、『Another HTML-lint』動作できませんので、導入環境のパスへ変更する必要があります。

Perl のパスは『which perl』コマンドで調べることができます。

【Perl 実行環境パスの確認方法】

使用する環境により Perl のパスが変わりますので、環境に合わせて変更いたします。

```
# which perl

/usr/bin/perl
```

上記例の場合、『Another HTML-lint』CGI スクリプトのデフォルトのパス『#!/usr/local/bin/perl』と異なる為、『usr/bin/perl』へパスを変更します。

【変更例】

下記、編集内容は『which perl』コマンドの結果が『#!/usr/local/bin/perl』と異なり、『#!/usr/bin/perl』となっている環境の変更例となります。

『htmlint.cgi』CGI スクリプトファイルを開き、ファイルの先頭行に記載されている『#!/usr/local/bin/perl』記述を『#!/usr/bin/perl』へパスを変更し保存します。

【編集前】

```
#!/usr/local/bin/perl
～中略～
```

【編集後】

```
#!/usr/bin/perl
～中略～
※使用する環境の Perl パスへ変更して下さい。
```

※Windows の場合は Perl.exe へのパスとなります。

記述例: #!C:¥Perl¥bin¥perl.exe

【Another HTML-lint の Perl パス記述ファイル一覧】

Another HTML-lint のモジュールには以下のファイルにて Perl パスが記述されています。

Htmllint
htmlint.cgi
tagslist.cgi
parsedtd.pl

※上記ファイルの Perl パスを、導入環境の Perl パスへ変更します。

8. 『Another HTML-lint』モジュール動作確認

『Another HTML-lint』モジュール適用後、HertCore 管理画面より、コンテンツのタグチェックを行なう方法は、複数コンテンツを同時にチェックを行なう方法や、1コンテンツ単位でタグチェックを行なう方法があります。

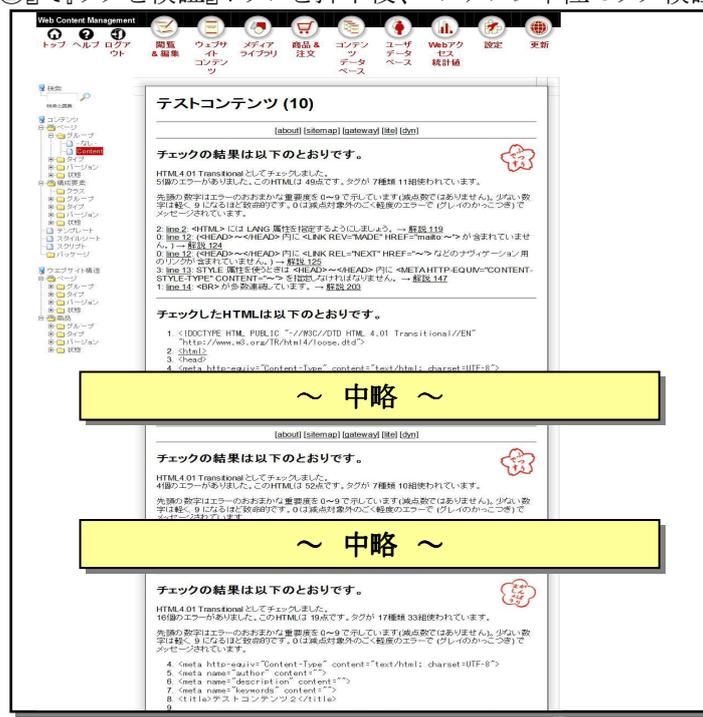
まず、複数コンテンツを同時にチェックを行なう場合は、HertCore のウェブサイトコンテンツ管理画面より、コンテンツ一覧画面を開きます。



① コンテンツ一覧画面より、タグ検証対象のコンテンツをチェックボックスでチェックします。

② タグ検証対象のコンテンツをチェックした状態で『タグを検証』ボタンを押下します。

『②』で『タグを検証』ボタンを押下後、コンテンツ単位のタグ検証結果が、一覧で表示出力されます。



また、1コンテンツ単位でタグチェックを行なう場合は、コンテンツの『新規作成』画面、又はコンテンツの『更新』画面のウェブエディタ上部にある『検証』ボタンを押下し実行します。



①コンテンツ編集画面を開き、ウェブエディタ上部にある『検証』ボタンを押下します。

『①』で『検証』ボタンを押下後、コンテンツのタグ検証結果が、ポップアップ画面で出力表示されます。

